

税金で格差のない平等な社会の実現を

石垣市立石垣第二中学校 3年 加原 駿輝

私の家の近くには市民が誰でも使用できる運動公園がある。ボールを蹴りに行ったりジョキングをしたり、体を動かす事が好きな私にとってその公園は、必要不可欠なものである。公園だけではない。学校や道路、図書館等、市民の健康や娯楽を守る様々な施設が税金できている。「税」について考えてみた時、私たちの日々の生活に潤いを与えてくれるのが税なのだと改めて実感できる。

私は以前、なぜ商品を購入するのに十パーセントもの消費税を払わなければいけないのか疑問に思っていた。世界情勢や自然災害等でただでさえ物価が高騰していて、「買いたいもの」ではなく、「買えるもの」へと買い物の仕方が変化しているというのに、その上に消費税も払うなんて、と考えていた。

しかし、税の使い道について調べてみて、目の前の事しか考えていなかった事に気づいた。例えば医療費は、診察や治療にかかる費用のうち八割または七割を国が負担してくれるため、私たちは安心して病院へ行くことができる。もし、全額負担だったら高額になる医療費を支払う事ができない人が出てくるのではないか。入院費用が全額負担で二十万円だとすると、二割負担では四万円の支払いで済む。こんなにも違いがあるのだ。税金で提供される福祉は、誰でも受ける事ができる。この事は経済格差をなくし、国民の誰もが幸せに生きる事につながると思う。

私たちが生きるこれからの社会は、「超少子高齢化」になる事が予想される。それは若者が減り、高齢者が多い社会である。今まで以上に介護や施設の支援として税金が必要になる。それだけではなく、ごみ処理、教育関係、年金、警察、消防、防衛等の仕事にも使われている。一人一人が納めた大事な税金が私達の日常生活に結びついており、形を変えて還元されているのだ。一人の力ではできない事も、一人一人の力が大きな「税」という力になる事で色々な事ができる。それは、格差のない平等な社会の実現であり、豊かな社会に生きる国民の幸せにつながる。

「一人はみんなのために、みんなは一人のために」
まさに、ゆいまーるの精神である。平和を願い、力を合わせて地上戦を戦った沖縄の方言ゆいまーるには、「どんな時も助け合って、支え合って生きてゆこう」という意味があり、沖縄に生まれた私の大好きな言葉の一つである。

皆で助け合い、協力し合って一人一人の豊かな生活を創っていこうというのが税金制度であり、だからこそ国民の義務の一つになっているのだと改めて思った。

私も将来、納税者の一人となる。誰かの生活を支える一人、誰かの税金によって支えられている一人だという事を心に留めていきたい。